



1 導入編

本製品や添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

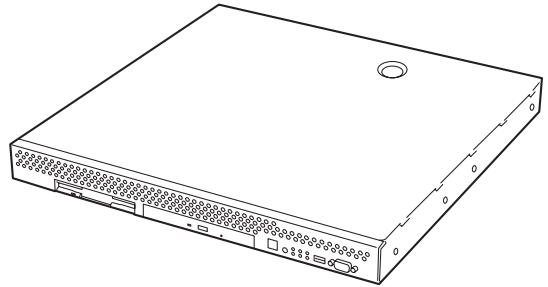
- 特長(→2ページ) 本製品の特長や添付(または別売品)のソフトウェア、および各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。
- 導入にあたって(→7ページ) 本製品をご利用されるシステムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。
- お客様登録(→12ページ) お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひ登録してください。
- セットアップを始める前に(→13ページ) セットアップの順序を説明します。お使いになるオペレーティングシステムや購入時の本体によってもセットアップの方法は異なります。
- Windows 2000のセットアップ(→15ページ) Windows 2000で運用する場合のシステムのセットアップの方法について説明しています。

特長

お買い求めになられた本製品の特長を次に示します。

高性能

- Intel® Pentium® 4 Processor (2AGHz/2.60GHz) 搭載
- 高速100BASE-TX/10BASE-Tインタフェース (100Mbps/10Mbps対応)
- 高速ディスクアクセス



高信頼性

- メモリ監視機能(1ビットエラー訂正/2ビットエラー検出)
- メモリ縮退機能(障害を起こしたデバイスの論理的な切り離し)
- バスパリティエラー検出
- 温度検知
- 異常検知
- 内蔵ファン回転監視機能
- 内部電圧監視機能
- BIOSパスワード機能
- フロントベゼルによるセキュリティロック
- ディスクアレイ(オプションにてサポート)

管理機能

- ESMPROシリーズ
- MWA (Management Workstation Application)
- ディスクアレイユーティリティ(数種類)

省スペース

- 高さ1U(約44mm)のラックマウント/卓上共用タイプ
- スリムCD-ROMドライブ/フロッピーディスクドライブ

保守機能

- オフライン保守ユーティリティ
- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能

省電力機能

スリープ機能

拡張性

- PCIバス(1スロット)
- 最大1.5GBの大容量メモリ
- LANポートを2ポート標準装備
- USB対応

すぐに使える

- Microsoft® Windows® 2000 日本語版をインストール済み(ビルド・トゥ・オーダーにて指定した場合)

豊富な機能搭載

- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- POWERスイッチマスク
- ソフトウェアPower Off
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能
- コンソールレス機能

自己診断機能

- Power On Self-Test (POST)
- システム診断 (T&D) ユーティリティ

便利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER(システムセットアップユーティリティ)
- ExpressPicnic(セットアップパラメータFD作成ユーティリティ)
- SETUP(BIOSセットアップユーティリティ)

本装置は、高い信頼性を確保するためのさまざまな機能を提供しています。本体に添付されているESMPROなどのソフトウェアが提供する監視機能との連携により、システムの障害を未然に防止、または早期に復旧することができます。また、停電などの電源障害からサーバを守る無停電電源装置、万一のデータ損失に備えるためのバックアップ装置などといった各種オプション製品により、さらなる信頼性を確保することができます。各機能はそれぞれ以下のハードウェア、およびソフトウェアにより実現しています。

管理分野	必要なハードウェア	必要なソフトウェア
サーバ管理	サーバ本体機能	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent MWA (Management Workstation Application)
ストレージ管理 ● ディスク管理 ● バックアップ管理	ディスクミラーリングコントローラ* ディスクアレイコントローラ* DAT/DLT/AITなど*	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent、 FastCheck、GAM(Global Array Manager) Windows2000バックアップツール ARCserve for Windows NT* BackupExec*、NetBackup*
電源管理	無停電電源装置(UPS)*	ESMPRO/UPSController* PowerChute <i>plus</i> * (注) 無停電電源装置により、使用するソフトウェアが異なります。
ネットワーク管理	100BASE-TX接続ボードなど*	ESMPRO/Netvisor*

* オプション製品。

サーバ管理

本装置はシステムボード上に標準でリソース監視チップを搭載しており、サーバに内蔵されている以下の各種リソースを監視します。これらのハードウェア機能と管理用ソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」が連携し、サーバの稼動状況などを監視するとともに万一の障害発生時にはただちに管理者へ通報します。

監視対象	機能
CPU	稼動監視機能、CPU負荷率の監視機能/高負荷の予防機能
メモリ	メモリ故障時の縮退運転機能、ECCメモリビットエラー検出/訂正機能、メモリ使用率の管理機能
冷却ファン	ファンの状態監視機能
温度	温度監視機能、温度異常時の起動抑止/停止機能
電圧	電圧監視機能、電圧異常時の起動抑止
サーバ電源	電源スイッチOFFによるシャットダウン機能、シャットダウン後の自動電源OFF

また、MWA (Management Workstation Application) により、サーバ上でオペレーティングシステムが稼動していない状態でのリモート操作/保守を管理PCから行ったり、リモートパワーオン機能により、ネットワーク上のPCからリモートで本体の電源をONにしたりすることができます。



ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgent、MWA (Management Workstation Application) は、本体に標準添付されています。各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ストレージ管理

大容量のストレージデバイスを管理するために次の点について留意しておきましょう。

ディスク管理

ハードディスクの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながると言えます。オプションのディスクアレイコントローラおよびディスクミラーリングコントローラを使用することにより、ディスクドライブをグループ化して冗長性を高め、データの損失を防ぐことができます。

ディスクアレイコントローラは搭載したハードディスクをディスクアレイ構成で運用・管理することができるPCIボードです。ディスクアレイコントローラが提供する主な機能は次のとおりです。

ディスクアレイコントローラの機能	機能の概要
レベル	RAID 0、1、5、6の各RAIDレベルをサポート
オートリビルド	故障したハードディスクを新品のハードディスクに交換した後、残りのハードディスクのデータから故障したハードディスクが持っていたデータを自動的に復元します。

ディスクアレイの設定は、セットアップツール「シームレスセットアップ」で設定できます。より詳細な設定をするときは、ボードのチップに搭載されている「RAID EzAssist」を使用してください。使用方法については、「ソフトウェア編」またはオンラインドキュメントを参照してください。

運用中の管理・保守はWindowsベースのユーティリティ「Global Array Manager (GAM)」を使用します。



その他、自動クリーンアップツール、ART (Array Recovery Tool) も提供しています。ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgent、GAM (Global Array Manager)、自動クリーンアップツール、ART (Array Recovery Tool) は、本体に標準で添付されています。ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ディスクミラーリングコントローラは、本体に内蔵のハードディスク (IDE) をディスクアレイにするためのPCIボードです。

ディスクアレイのRAID0、1の各RAIDレベルをサポートしています。

ディスクミラーリングコントローラの制御や各種設定はコントローラに搭載されているコンフィグレーションユーティリティ「FastBuild」を使用します。詳しくは、ディスクミラーリングコントローラに添付の説明書を参照してください。

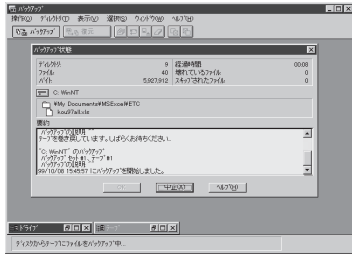
運用中の管理・保守はWindowsベースのユーティリティ「FastCheck」を使用します。使用方法については、「ソフトウェア編」またはオンラインドキュメントを参照してください。

バックアップ管理

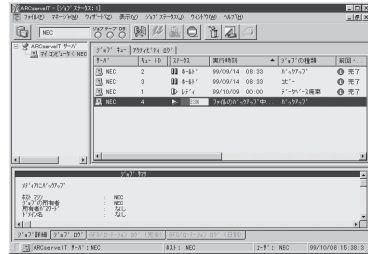
定期的なバックアップは、不意のサーバのダウンに備える最も基本的な対応です。DAT装置やDLT装置と各種ソフトウェアを使って定期的にバックアップをとってください。容量や転送スピード、バックアップスケジュールの設定など、ご使用になる環境に合わせて利用してください。

バックアップデバイスと接続するためにはオプションのSCSIコントローラボードが必要です。

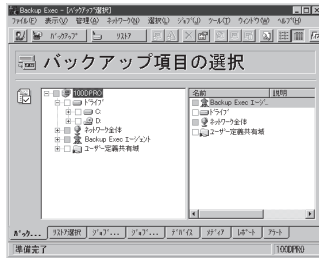
アプリケーション名	説明
NTBackup(OS標準)	Windows 2000/Windows NT標準のバックアップツール。単体バックアップ装置に単純なバックアップを行う時に使用。
ARCserve (コンピュータ・アソシエイツ社)	国内で最もポピュラーなPCサーバのバックアップツール。スケジュール運用可能。集合バックアップ装置、DBオンラインバックアップなどに対応可能。
BackupExec(ベリタス社)	米国で最もポピュラーなPCサーバのバックアップツール。NTBackupと同一テープフォーマットを使用。スケジュール運用可能。集合バックアップ装置、DBオンラインバックアップなどに対応可能。
NetBackup(ベリタス社)	異種プラットフォーム環境で統合的な制御/管理を実現した、BackupExecの上位レベルバックアップツール。基幹業務など大規模システムまで対応。オープンファイルバックアップ、Disaster Recoveryを標準サポート。DBオンラインバックアップなどに対応可能。



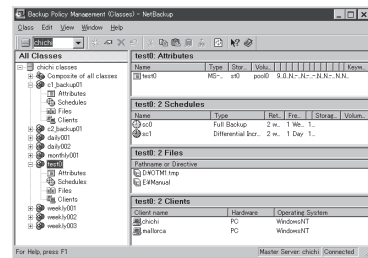
NTBackup



ARCserve



BackupExec



NetBackup

電源管理

商用電源のトラブルは、サーバを停止させる大きな原因のひとつです。停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリーから電源を供給。システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源ユニットの寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュールなどによるサーバの自動・無人運転を実現することもできます。

本製品では、NEC社製多機能UPS(I-UPSPro)と、APC社製Smart-UPSの2種類の無停電電源装置を提供しており、それぞれESMPRO/UPSController、PowerChute *plus*で管理・制御します。

ネットワーク管理

ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentを使用することにより、本体に内蔵されているLANカードの障害や、回線の負荷率等を監視することができます。

また、別売のESMPRO/Netvisorを利用することにより、ネットワーク全体の管理を行うことができます。

導入にあたって

本装置を導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

システム構築のポイント

実際にセットアップを始める前に、以下の点を考慮してシステムを構築してください。

運用方法の検討

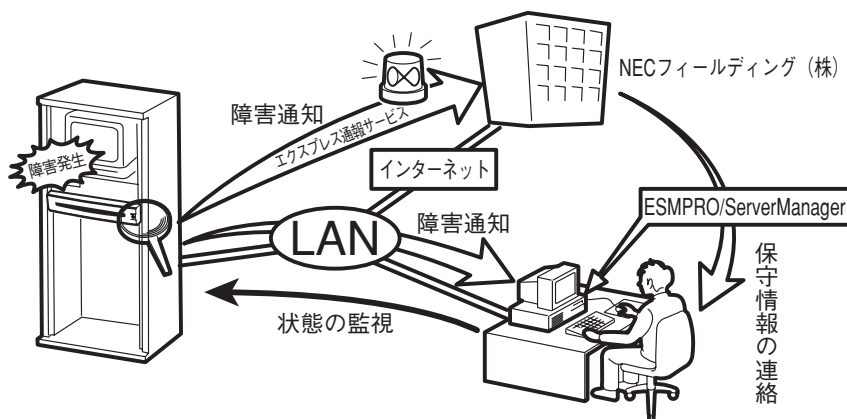
「特長」での説明のとおり、本装置は運用管理・信頼性に関する多くのハードウェア機能を持ち、用途に応じてさまざまなソフトウェアが添付されています。

システムのライフサイクルの様々な局面において、「各ハードウェア機能および添付ソフトウェアのどれを使用して、どのような運用するか？」などを検討し、それに合わせて必要なハードウェアおよびソフトウェアのインストール/設定を行ってください。

稼動状況・障害の監視、および保守

本体に標準添付の「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」を利用することにより、リモートからサーバの稼動状況や障害の監視を行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。

運用の際は、「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」を利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。



なお、本装置に障害が発生した際に、NECフィールディング(株)がアラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」をご利用することもご検討ください。

システムの構築・運用にあたっての留意点

システムを構築・運用する前に、次の点について確認してください。

出荷時の状態を確認しましょう

本製品を導入する前に、出荷時の状態を確認しておいてください。

- システムやオペレーティングシステムのインストール状態について

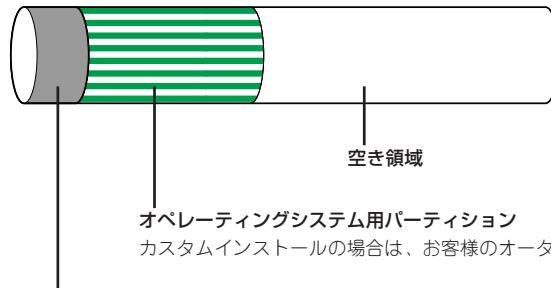
注文により出荷時の状態に次の2種類があります。

出荷時のモデル	説明
カスタムインストール	ビルド・トゥ・オーダーにてWindows 2000を購入された場合。
未インストール	ビルド・トゥ・オーダーによるOSの購入/インストールを指定されなかった場合。

出荷時のオペレーティングシステムのインストール状態により、必要なセットアップ作業が異なります。13ページの説明に従ってセットアップを行ってください。

- パーティション構成について

本装置では、セットアップすると1台目のディスクの先頭に保守用の領域(保守用パーティション)が自動的に作成されます。



保守用パーティション(約16MB)

保守ユーティリティが格納されています。また、EXPRESSBUILDERでのセットアップ時に作業領域としても利用されます。オペレーティングシステムから「MAINT_P」のFATパーティションとして認識されます。

セットアップの手順を確認しましょう

システムを構築するにあたり、「セットアップ」は必要不可欠なポイントです。セットアップを始める前にセットアップをどのような順序で進めるべきか十分に検討してください。

必要のない手順を含めたり、必要な手順を省いたりすると、システムの構築スケジュールを狂わせるばかりでなく、本装置が提供するシステム全体の安定した運用と機能を十分に発揮できなくなります。

1. 運用方針と障害対策の検討

ハードウェアが提供する機能や採用するオペレーティングシステムによって運用方針やセキュリティ、障害への対策方法が異なります。

「特長(2ページ)」に示す本装置が提供する機能を十分に利用したシステムを構築できるよう検討してください。

また、システムの構築にあたり、ご契約の保守サービス会社および弊社営業担当にご相談されることもひとつの手だてです。

2. ハードウェアのセットアップ

本体の電源をONにできるまでのセットアップを確実にを行います。この後の「システムのセットアップ」を始めるために運用時と同じ状態にセットアップしてください。詳しくは、13ページに示す手順に従ってください。

ハードウェアのセットアップには、オプションの取り付けや設置、周辺機器の接続に加えて、内部的なパラメータのセットアップも含まれます。ご使用になる環境に合わせたパラメータの設定はオペレーティングシステムや管理用ソフトウェアと連携した機能を利用するために大切な手順のひとつです。

3. システムのセットアップ

オプションの取り付けやBIOSの設定といったハードウェアのセットアップが終わったら、ハードディスクのパーティションの設定やディスクアレイの設定、オペレーティングシステムや管理用ソフトウェアのインストールに進みます。

<初めてのセットアップの場合>

初めてのセットアップでは、お客様が注文の際に指定されたインストールの状態によってセットアップの方法が異なります。

「カスタムインストール」を指定して購入された場合は、本体の電源をONにすれば自動的にセットアップが始まります。セットアップの途中で表示される画面のメッセージに従って必要事項を入力していけばセットアップは完了します。

「未インストール」にて購入された場合は、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」が提供する自動セットアップユーティリティ「シームレスセットアップ」を使用します。シームレスセットアップでは、はじめにセットアップに必要な情報を選択・入力するだけであとの作業はシームレス(切れ目なく)で自動的に行われます。

<未インストールのセットアップ・再セットアップの場合>

シームレスセットアップを使用してください。煩雑な作業をシームレスセットアップが代わって行ってくれます。

本装置がサポートしているOSはMicrosoft® Windows® 2000 Server 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)です。

その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

「Windows 2000」のインストールでは、煩雑なセットアップ作業を「シームレスセットアップ」が代わりに行ってくれます。セットアップでは、シームレスセットアップを利用することをお勧めします。

4. 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるよう障害処理のためのセットアップをしてください。Windows 2000に関するセットアップについては29ページをご覧ください。

5. 管理用ソフトウェアのインストールとセットアップ

出荷時にインストール済みの管理用ソフトウェアや、シームレスセットアップやマニュアルでインストールしたソフトウェアをお使いになる環境にあった状態にセットアップします。また、本装置と同じネットワーク上にある管理PCにインストールし、本装置を管理・監視できるソフトウェアもあります。併せてインストールしてください。詳しくは「ソフトウェア編」をご覧ください。

各運用管理機能を利用するにあたって

本装置で障害監視などの運用管理を行うには、標準添付のESMPRO/ServerAgent、ESMPRO/ServerManager、または別売の同ソフトウェアが必要となります。この後で説明するセットアップ手順、またはソフトウェアの説明書(別売の場合)に従って各ソフトウェアのインストール、および必要な設定を行ってください。

各運用管理機能を利用する際には、以下の点にご注意ください。

サーバ管理機能を利用するにあたって

本体の各コンポーネント(CPU/メモリ/ディスク)の使用状況の監視やオペレーティングシステムのストール監視など、監視項目によってはESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentでしきい値などの設定が必要になります。詳細は、各ソフトウェアに関する説明やオンラインヘルプなどを参照してください。

ストレージ管理機能を利用するにあたって

● ディスクアレイコントローラを使用する場合

- ESMPRO/ServerAgentに加えてGAMドライバ、GAM Serverをインストールしておく必要があります。「ソフトウェア編」の「Global Array Manager(GAM)」の説明に従ってGAMドライバ、GAM Serverをインストールしてください。
- Array Recovery Tool(ART)や自動クリーンアップツールを併用することにより、さらに、ディスク稼働率や予防保守性を高めることができます。Mylex製ディスクアレイシステムを構築する際は、ARTや自動クリーンアップツールも一緒にご利用されることをお勧めします。

● ディスクミラーリングコントローラを使用する場合

ESMPRO/ServerAgentに加えてFastCheckをインストールしておく必要があります。「ソフトウェア編」の「FastCheck」の説明に従ってインストールやセットアップをしてください。

● バックアップファイルシステムを使用する場合

DAT装置を使用する場合は、クリーニングテープを使って定期的にヘッドを清掃するよう心がけてください。ヘッドの汚れはデータの読み書きエラーの原因となり、データを正しくバックアップ/リストアできなくなります。テープドライブやテープの状態を監視する「テープ監視ツール」を使用することをお勧めします。テープ監視ツールについては「ソフトウェア編」を参照してください。

電源管理機能を利用するにあたって

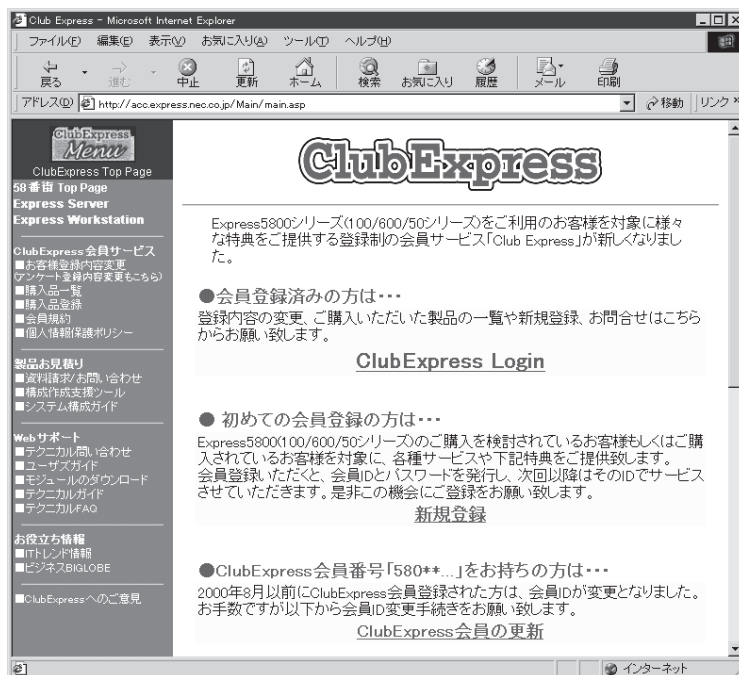
- 無停電電源装置(UPS)を利用するには、専用の制御用ソフトウェア(ESMPRO/UPSController、PowerChute *plus*)または、オペレーティングシステム標準のUPSサービスのセットアップが必要です。
- 無停電電源装置(UPS)を利用する場合、自動運転や停電回復時のサーバの自動起動などを行うにはBIOSの設定が必要となる場合があります。「システムBIOS(103ページ)」を参照して、「Server」メニューにある「AC LINK」の設定をご使用になる環境に合った設定に変更してください。

お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、またはClub Expressのインターネットホームページ

<http://club.express.nec.co.jp/>

にてご登録ください。



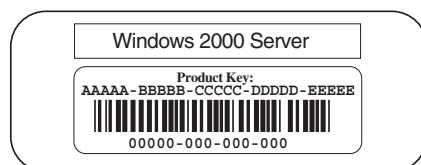
「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。是非、ご覧ください。

セットアップを始める前に

セットアップの順序と参照するページを説明します。セットアップはハードウェアから始めます。



ビルド・トゥ・オーダー(BTO)でWindows 2000のインストールを指定された場合はExpressサーバ本体にWindows 2000のプロダクトキーが記載されたIDラベルが貼りつけられています。Windows 2000のセットアップや再インストール時に必ず必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう注意してください。もし剥がれたり汚れたりして見えなくなった場合はお買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。あらかじめプロダクトキーの番号をメモし、他の添付品といっしょにメモを保管されることをお勧めします。



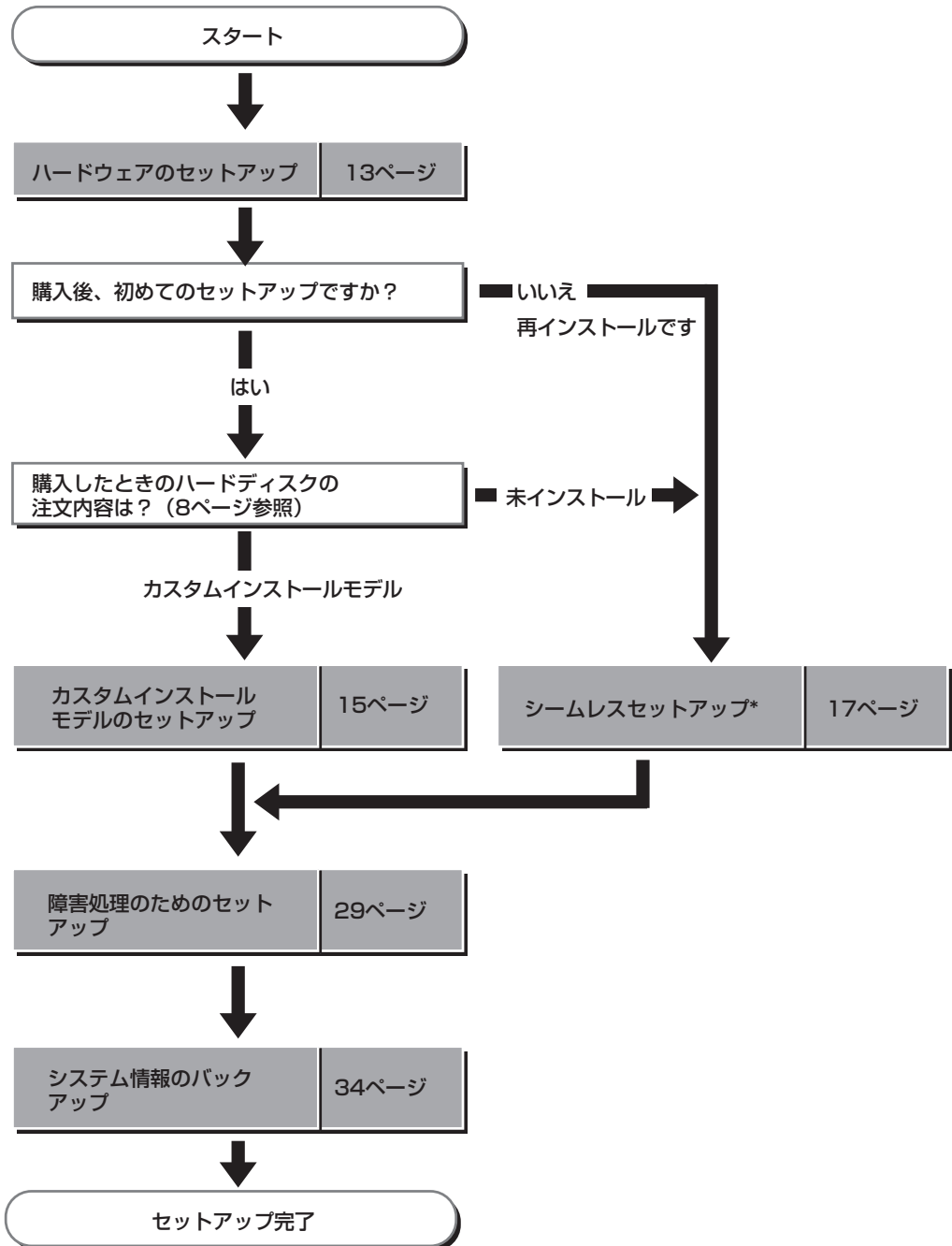
ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. 別途購入したオプションを取り付ける(→70ページ)。
2. 卓上に設置する場合は、最も適した場所に設置する(→43ページ)。
ラックに取り付ける場合は、本体の底面をしっかりと持ってラックに取り付ける(→45ページ)。
3. ディスプレイ装置やマウス、キーボードなどの周辺装置を本体に接続する(→56ページ)。
4. ハードウェアの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。
105ページを参照してください。

システムのセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了したら、お使いになるオペレーティングシステムに合わせて後述の説明を参照してください。再インストールの際にも参照してください。



* シームレスセットアップを使用しない場合はEXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows 2000 Serverインストールレーションサプリメントガイド」を参照してセットアップをしてください。

Windows 2000のセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了してから、Windows 2000やシステムのセットアップをします。再インストールの際にも参照してください。

カスタムインストールモデルのセットアップ

「ビルド・トゥ・オーダー」にて「カスタムインストール」を指定して購入された本体のハードディスクは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、本装置が提供するソフトウェアがすべてインストールされています。



チェック

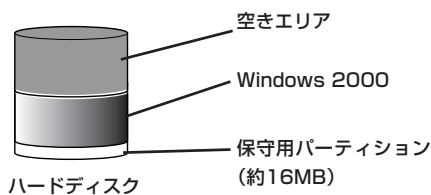
ここで説明する手順は、「カスタムインストール」を指定して購入された製品で初めて電源をONにするときのセットアップの方法について説明しています。再セットアップをする場合や、その他の出荷状態のセットアップをする場合は、「シームレスセットアップ」を参照してください。

セットアップをはじめる前に - 購入時の状態について -

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本体のハードウェア構成(ハードディスクのパーティションサイズも含む)やハードディスクにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー(ビルド・トゥ・オーダー)によって異なります。

右図は、ハードディスクのパーティション構成について図解しています。



セットアップの手順

次の手順で本体を起動して、セットアップをします。

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにし、そのままWindowsを起動する。
[Windows 2000 Server セットアップ]画面が表示されます。
2. [次へ]をクリックする。
[使用許諾契約]画面が表示されます。
3. [同意します]にチェックをして、[次へ]をクリックする。
以降、ユーザー名やプロダクトキーなどの設定画面が次々と表示されます。
4. 画面の指示に従って必要な設定をする。
セットアップの終了を知らせる画面が表示されます。

5. [完了]をクリックする。
システムが再起動します。
6. 再起動後、システムにログオンする。
7. 26～27ページの手順13と手順14を参照して、PROSet IIのインストールとネットワークドライバの詳細設定をする。
8. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。
9. 29ページを参照して障害処理のためのセットアップをする。
10. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。

インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス*
- Global Array Manager Server*
- Global Array Manager Client*
- 自動クリーンアップツール*
- Array RecoveryTool
- FastCheck*
- ESMPRO/UPSController(本ソフトウェアを購入された場合のみ)*
- PowerChute *plus*(本ソフトウェアを購入された場合のみ)*

上記のソフトウェアで[*]印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならぬソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

重要

カスタムセットアップで出荷された場合、インストールされているService Packのバージョンと、本体に添付されているService Packのバージョンが異なる場合があります。

本体にインストールされているService Pack以降のバージョンが添付されている場合は、本体に添付の「Windows 2000 RURx対応(Service Pack x)インストール手順書」を参照してサービスパックのインストールを行ってください。サービスパック情報に関しては、下記サイトより詳細情報を確認してください。

[8番街] <http://nec8.com/>

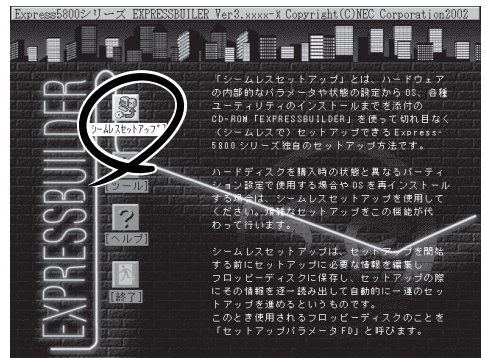
11. 34ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でカスタムインストールで購入された製品での初めてのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「シームレスセットアップ」を使ってください。

シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってセットアップをします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS(Windows 2000)、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。ハードディスクを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行きます。



シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるといったものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。



- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

シームレスセットアップは、この情報を元にしてすべてのセットアップを自動で行います。この間は、本体のそばにいて設定の状況を確認する必要はありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態にセットアップすることができます。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクをご利用ください。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。

事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておくこと、シームレスセットアップの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます。(セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正することもできます)。本装置の他にWindows 95/98/Me、Windows NT 3.51以降またはWindows XP/2000で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします。

ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、149ページで説明しています。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

本装置がサポートしているOSはMicrosoft® Windows® 2000 Server 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)です。その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、154ページの「オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール」を参照して、セットアップ情報ファイルを作成してください。

Windows 2000について

Windows 2000は、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。



- インストールを始める前にオプションの増設や本体のセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。
- NECが提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。
- シームレスセットアップを完了した後に29ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

Windows 2000をインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

ハードディスクの接続について

OSをインストールするハードディスク以外のハードディスクを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

$$\begin{aligned}
 &1000\text{MB} + \text{ページングファイルサイズ} + \text{ダンプファイルサイズ} \\
 &1000\text{MB} \qquad \qquad \qquad = \text{インストールに必要なサイズ} \\
 &\text{ページングファイルサイズ(推奨)} = \text{搭載メモリサイズ} \times 1.5 \\
 &\text{ダンプファイルサイズ} \qquad \qquad = \text{搭載メモリサイズ} + 12\text{MB}
 \end{aligned}$$



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は、「2048MB+12MB」です。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述の計算方法から

$$1000\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) = 2292\text{MB}$$

となります。



シームレスセットアップでインストールする場合、必要最小限のパーティションサイズは以下のように計算してください。

- Windows 2000 Service Packを適用しない場合
「前述の必要最小限のパーティションサイズ」もしくは「4095MB」のうち、どちらか大きい方
- Windows 2000 Service Packを適用する場合
「前述の必要最小限のパーティションサイズ + 850MB」もしくは「4095MB」のうち、どちらか大きい方

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。

既存のパーティションを残したい場合は、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」に格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows 2000 Serverインストールレーションサブリメントガイド」を参照して再インストールしてください。

インストールレーションサブリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関する注意事項が記載されています。

ディスク構成について(「MAINT_E_P」と表示されている領域について)

ディスク領域に「MAINT_E_P」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。



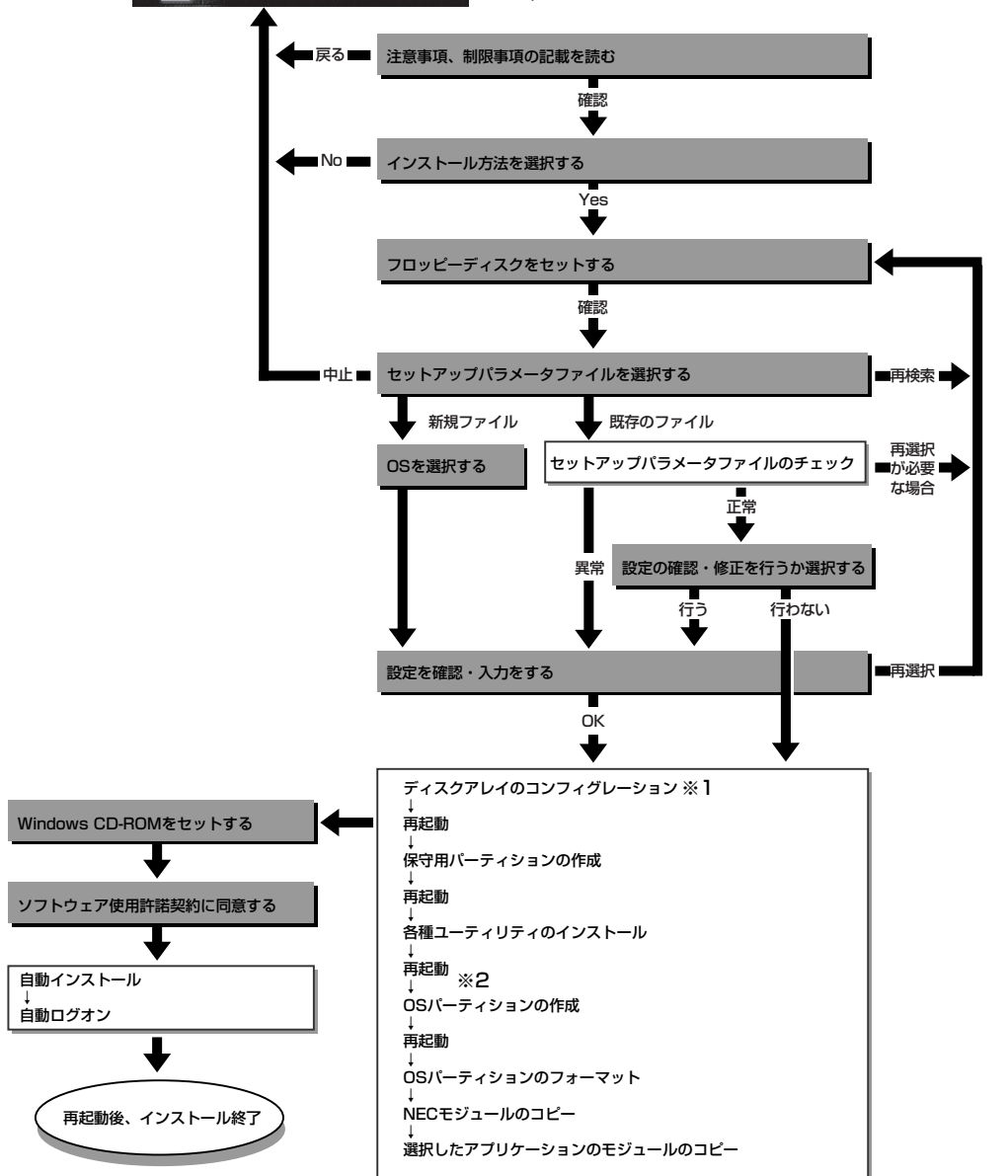
Service Packの適用について

Express5800シリーズでは、Service Packを適用することができます。本体に添付されているService Pack以降のService Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

[8番街] <http://nec8.com/>

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。



■ : 入力や選択が必要な作業
□ : 自動的に作業が進む内容

※1 ディスクアレイコントローラが搭載されたシステムで、「RAIDの新規作成」がチェックされている場合のみ実行される。
 ※2 OSの選択で[その他]を選択したときはここで終了する。

セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。

セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。



- システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。
- Windows 2000の起動後にグラフィックスアクセラレータドライバやネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows 2000 Serverインストールサプリメントガイド」を参照してください。

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。
2. 本体のCD-ROMドライブにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)が、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。
CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

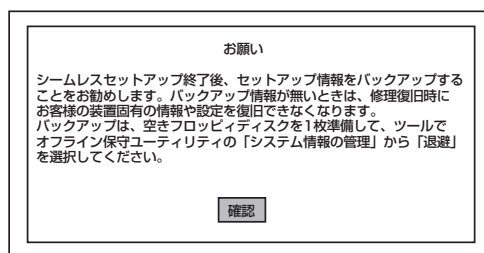
4. [シームレスセットアップ]をクリックする。

「お願い」が表示されます。



5. 記載内容をよく読んでから[確認]をクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。



6. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックする。



- 「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのフォーマット済みフロッピーディスク(ブランクディスク)をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックしてください。
- セットしたセットアップパラメータFDは指示があるまで取り出さないでください。

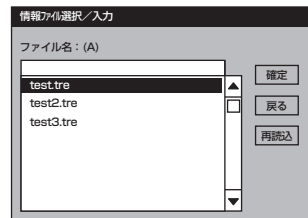
[設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

- ① インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。



選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような問題がある場合(たとえばExpressPicnic Ver.3以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクを確認してください。



セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

- ② 確認する場合は [確認] を、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[スキップ] をクリックする。

[確認] をクリック→手順8へ進む
[スキップ] をクリック→手順9へ進む

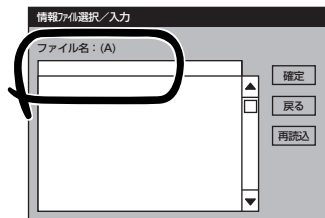
[ブランクディスクをセットした場合]

- ① [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分をクリックするか、<A>キーを押す。

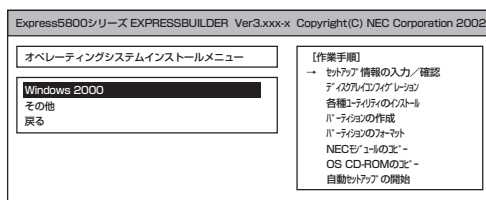
入力ボックスが表示されます。

- ② ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー]が表示されます。リストには、この装置がサポートしているOSが表示されます。



- ③ リストボックスからインストールする [Windows 2000] を選択する。



7. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

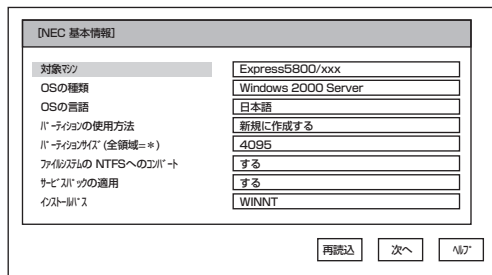
本体にRAIDコントローラボードが搭載されている場合は、[アレイディスクの設定]画面が表示されます。「RAIDの作成」が「既存RAIDを使用する」に設定されていることを確認し、[次へ]をクリックしてください。



次に、[NEC基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください(画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。)

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[キャンセル]をクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

<表示例>



重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション(保守用パーティションを除く)の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション <保守用パーティション>	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
保持	削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(19ページ参照)。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設定値は120GB以上の値を指定しないでください。
- 「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外(保守領域を除く)にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows 2000をインストールします。
- 実領域が120GB以上になる場合は、パーティションサイズに「全領域」を指定しないでください。
- 英語版OSをご使用の場合は、別途販売店または当社営業担当にお申し付けください。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。
- ここでは日本語の入力はできません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ログオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力し、設定してください。ここでは、仮の名前を入力してください。

<次ページへ続く>

重要

- セットアップの途中で、Windows 2000をインストールするパーティションを設定する画面が表示されます。このとき表示される先頭にある16MBの領域は、Express5800シリーズ特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティションです。この領域の削除は推奨しませんが、16MBの領域を確保させたくない場合は、マニュアルセットアップでインストールを行ってください。シームレスセットアップでは削除できません。
- ドメイン/ワークグループ設定はWorkgroup設定でインストールされる場合があります。その場合はドメインへの参加やWorkgroup名の設定はOS起動後に設定してください。

ヒント

- [NEC基本情報]画面にある[再読み込み]をクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読み込み]は、[NEC基本情報]画面にのみあります。
- [コンピュータの役割]画面にある[終了]をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

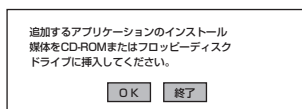
8. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。



9. 追加するアプリケーションをインストールする。

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。



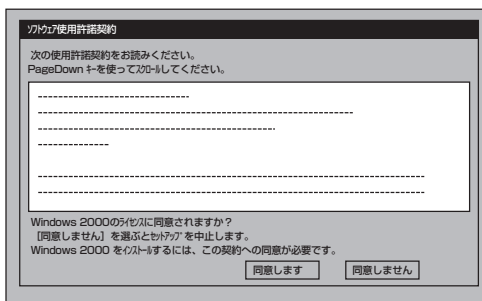
10. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」とセットアップパラメータFDをCD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

11. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]をクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、[同意しません]をクリックするか、<F3>キーを押す。

重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows 2000はインストールされません。



12. NEC基本情報で「サービスパックの適用」を[する]にした場合は、次の操作をする。

- ① メッセージに従ってセットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す。
- ② メッセージに従ってWindows 2000 Service Pack 1以降のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

Windows 2000と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

13. PROSet II をインストールする。

PROSet II は、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。

PROSet II を使用することにより、以下のことが行えます。

- － アダプタ詳細情報の確認
- － ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- － Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバスイッチ箇のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合にPROSet II が必要になります。

PROSet II をインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

- ① CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
- ② スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
- ③ 「<CD-ROMのドライブレター>: ¥WINNT ¥W2K ¥PC62C ¥HD1 ¥WINDOWS ¥PROSet2 ¥IA32」ディレクトリ内の「PROSET.MSI」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSet II InstallShield Wizard]が起動します。

- ④ [Next]をクリックする。
- ⑤ [I accept the terms in the license agreement]を選択し、[Next]をクリックする。
- ⑥ [Typical]を選択し[Next]をクリックする。
- ⑦ [Install]をクリックする。

「デジタル署名が見つかりません」というメッセージが表示された場合は、[はい]を選択して、インストールを続けてください。

[InstallShield Wizard Completed]ウィンドウが表示されます。

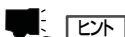
- ⑧ [Finish]をクリックする。
- ⑨ システムを再起動する。

14. ネットワークドライバの詳細設定をする。

標準装備の2つのネットワークアダプタは、自動的にインストールされますが、それぞれ転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

- ① スタートメニューから[設定]をポイントし[コントロールパネル]をクリックする。
- ② [コントロールパネル]ウィンドウで、[Intel(R)PROSet II]アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R)PROSet II]ダイアログボックスが表示されます。
- ③ リスト中の「Intel(R) PRO/ 100 M Network Connection」にマウスカーソルを合わせる。
- ④ [Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]の項でHUBの設定値と同じ値に設定する。
- ⑤ 続けて、リスト中の「Intel(R) PRO/ 100 M Network Connection#2」にマウスカーソルを合わせる。
- ⑥ [Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]の項でHUBの設定値と同じ値に設定する。
- ⑦ [Intel(R)PROSet II]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。



ヒント

サービスの追加で[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。

15. 標準で装備されているグラフィックスアクセラレータ用ドライバをアップデートする。

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は、そのボードに添付されている説明書に従ってドライバをインストールしてください。

- ① CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
- ② スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
- ③ 「<CD-ROMのドライブレター>:\\$WINNT\\$VIDEO\\$W2K」ディレクトリ内の「SETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。
- ④ メッセージに従ってインストール作業を進める。
「デジタル署名が見つかりません」というメッセージが表示された場合は、[はい]を選択して、インストールを続けてください。
- ⑤ CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってシステムを再起動する。

16. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。

17. 29ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。

18. 34ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

Adapter Fault Tolerance(AFT)/Adaptive Load Balancing(ALB)のセットアップ

Adapter Fault Tolerance(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合に自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させます。

Adaptive Load Balancing(ALB)とは複数のアダプタでグループを作り、サーバからの送信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スループットを向上させます。この機能はAFT機能を含みます。

AFT/ALB機能を使用する場合は、以下の手順に従ってセットアップしてください。



- AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。
- Adapter Teamingのグループとして指定するアダプタはすべて同じLAN上に存在する必要があります。別々のスイッチに接続した場合は正常に動作しません。

1. [コントロールパネル]ダイアログボックスで、[Intel(R) PROSet II]アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PROSet II]ダイアログボックスが表示されます。
2. リスト中の「Intel(R) PRO/100 M Network Connection」にマウスポインタを合わせ、右クリックする。
プルダウンメニューが表示されます。
3. [Add to Team>]を選択し、[Create New Team...]をクリックする。
[Teaming Wizard]ダイアログボックスが表示されます。
4. 「Adapter Fault Tolerance」または「Adaptive Load Balancing」を選択して [次へ]をクリックする。
5. [次へ]をクリックする。
6. チームにするアダプタをチェックして[次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。
[Intel(R) PROSet II]ダイアログボックスに戻ります。
8. [OK]をクリックする。
9. システムを再起動する。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本体内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

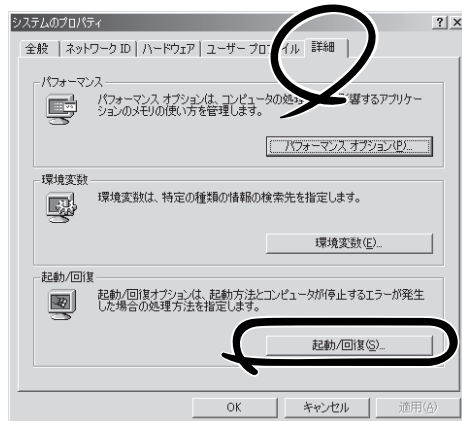


メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

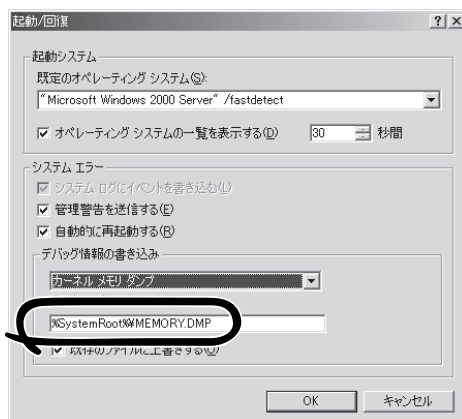
1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [システム]アイコンをダブルクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細]タブをクリックする。
4. [起動/回復]をクリックする。



5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK]をクリックする。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

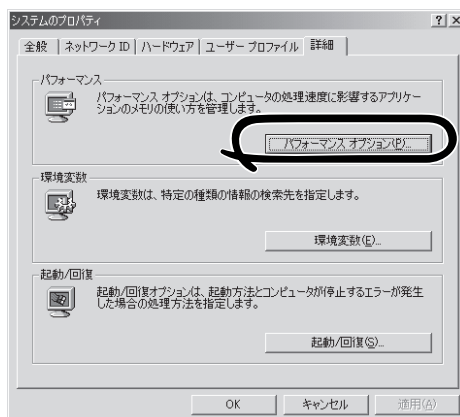
D:\MEMORY.DMP



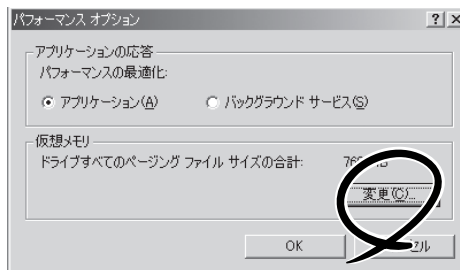
重要

- デバッグ情報の書き込みは[カーネル メモリ ダンプ]を指定することを推奨します。
- 本体に搭載しているメモリ容量+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリを増設した場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先の空き容量の確認を行ってください。なお、搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は2048MBとなります。空き容量は[2048MB+12MB]を目安にしてください。

6. [パフォーマンスオプション]をクリックする。



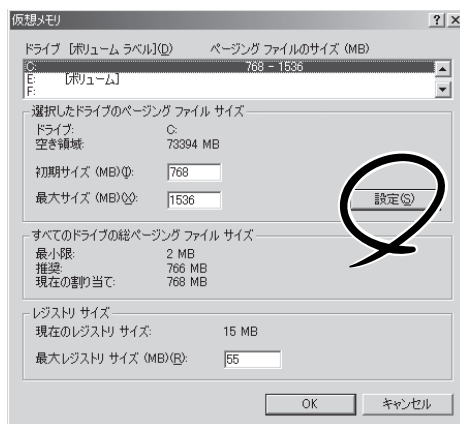
7. [仮想メモリ]の[変更]をクリックする。



8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。

重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。ページングファイルの[初期サイズ]を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(19ページ)」を参照してください。
- 障害発生時に備えて、事前にDUMPスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。



9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

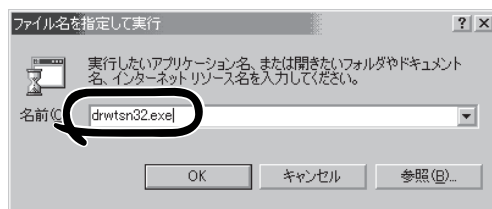
ワトソン博士の設定

Windows 2000ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバグガです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

[Windows 2000 ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。

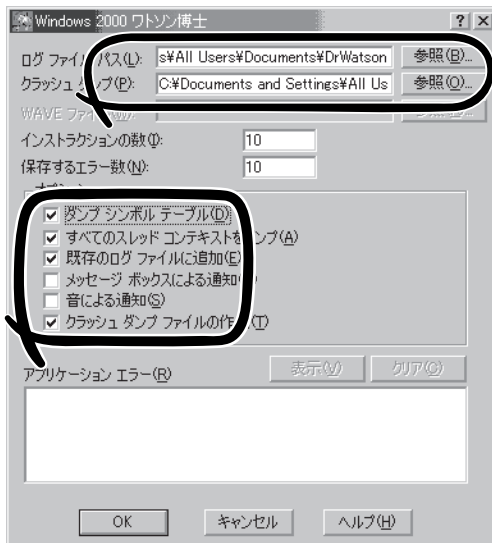


3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。



4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ダンプシンボルテーブル
- すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- 既存のログファイルに追加
- クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。
[アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスが表示されます。
3. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。
[Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
4. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]チェックボックスをオンにして[次へ]をクリックする。
5. ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットして[OK]をクリックする。
6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。
7. [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスの[閉じる]をクリックする。
8. [コントロールパネル]ダイアログボックスを閉じる。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。

管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、監視用の「ESMPRO/ServerAgent」および管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。ESMPRO/ServerAgentは、シームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。

[スタート]メニューの[プログラム]やコントロールパネルにインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。シームレスセットアップの設定でインストールしなかった場合は、第3編の「ソフトウェア編」を参照して個別にインストールしてください。



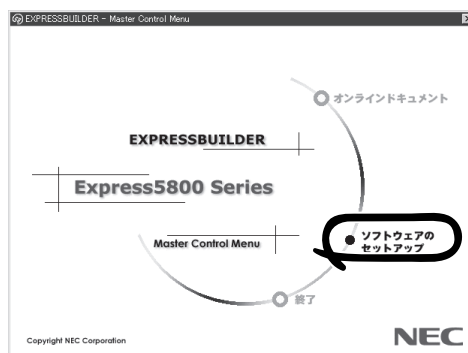
ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

システムのアップデート - Service Packの適用 -

システムのアップデートは、次のような場合に行います。

- システム構成を変更した場合
- システムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
(Service Pack関連の Express5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスクを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときService Packを再適用する必要はありません。)

管理者権限のあるアカウント (Administrator など) で、システムにログインした後、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を本体のCD-ROMドライブにセットしてください。表示された画面「マスターコントロールメニュー」の[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックし、メニューから[システムのアップデート]をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、Service Packを適用してください。



システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を本体のCD-ROMドライブにセットして、再起動する。
EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。
3. [ツール]—[オフライン保守ユーティリティ]を選ぶ。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

マニュアルセットアップ(手動インストール)

シームレスセットアップを使わずにWindows 2000をインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows 2000 Server インストールガイド」を参照してください。また、EXPRESSBUILDERを使用して「サポートディスク」を用意してください。

Expressサーバへのオペレーティングシステムのインストールはシームレスセットアップを使用することをお勧めします。

サポートディスクとは？

シームレスセットアップを使わずに再セットアップするときの手順「マニュアルセットアップ」では、「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。

「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」には、Windows 2000のインストールで必要となる本体標準装備のネットワークやディスプレイ用のドライバなどが含まれています。マニュアルセットアップを始める前にWindows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを用意してください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。
2. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。
3. 本体のCD-ROMドライブに添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
4. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

5. [ツールメニュー]から[サポートディスクの作成]を選択する。
6. [サポートディスク作成メニュー]から[Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER]を選択する。
7. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。

「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。

作成した「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

本装置の他にWindows 2000/XP、またはWindows NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作するコンピュータをお持ちの場合は、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットすると表示される「マスターコントロールメニュー」からWindows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを作成することもできます。

